

会員講演1

Domino x 生成AIで進める業務改革 ～AI時代の情報活用戦略～

SMK株式会社システム開発部
清水 義弘

- 商号 SMK株式会社
- 創業 1925年（大正14年）4月
- 資本金 7,996 百万円
- 株式 発行する株式総数 19,596,127 株
発行済株式総数 7,200,000 株
- 決算期 3月31日
- 売上高 48,051 百万円（連結）
- 社員数 3,985 名（連結）
- 本社 〒142-8511
東京都品川区戸越
6丁目5番5号



情報通信



CS事業部

基板対基板コネクタ
電線対基板コネクタ
FPCコネクタ
同軸コネクタ
インターフェース
コネクタ
アースターミナル
ジャック



SCI事業部

プッシュスイッチ
スライドスイッチ
検出用スイッチ



静電容量方式タッチパネル
抵抗膜方式タッチパネル
ミリ波センサー「Milweb®」



家電



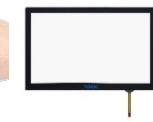
基板対基板コネクタ
電線対基板コネクタ
FPCコネクタ
インターフェース
コネクタ
ジャック



プッシュスイッチ
スライドスイッチ
検出用スイッチ
リモコン



静電容量方式タッチパネル
抵抗膜方式タッチパネル
タッチスイッチ



車載



基板対基板コネクタ
電線対基板コネクタ
FPCコネクタ
インターフェースコネクタ
同軸コネクタ



プッシュスイッチ
マルチタッチ静電パッド
カメラモジュール



静電容量方式タッチパネル
抵抗膜方式タッチパネル



産機・その他



太陽電池モジュール用コネクタ
FPCコネクタ
ドロワーコネクタ
同軸コネクタ



プッシュスイッチ
スライドスイッチ
検出用スイッチ



静電容量方式タッチパネル
抵抗膜方式タッチパネル



*MilwebはSMK株式会社の登録商標です。

清水 義弘 (しみず よしひろ)

- 1996年 博士後期課程修了 (工学博士)
- 1996年 SMK株式会社入社
技術管理部でシミュレーション解析担当
- 1997～99年 海外含むNotes の展開・普及
- 2000～06年 Notes/Domino担当、DB開発
- 2006～14年 情報系システムを統括
- 2014～22年 アメリカサンディエゴ出向
主に人事・総務・IT統括
- 2022年～ システム開発部全体の統括

現状の課題

- 情報があるのに活用出来ないという構造的な問題
- 必要な知識にたどり付けない
- 情報探索に必要以上に時間がかかる

AI時代に求められる視点

- 「探す」から「引き出す」へ
- 文脈を活かした新しい情報アクセス
- 判断業務に集中出来る環境作り

Domino × 生成AI のアプローチ

- 蓄積された情報を“使える形”に変える
- 必要な情報へ素早く到達する仕組み
- 組織のナレッジ活用を加速する基盤

① 情報が分散している

- Notes DBが増え続け、どこに何があるか把握出来ない
- 部署・システムごとに保存場所が異なる

② 業務が属人化

- ベテランの知識が共有されない
- 文書化が追いつかず、知識が共有されない
- 中間採用の増加、社内経験を持つ人が減少

情報があるのに活かせ
ないという構造が形成

③ “聞いた方が早い”文化

- 必要な情報にたどり着きにくい
- 結果として「詳しい人を探す」ことになる

④ キーワード検索の限界

- キーワード検索ではヒットしない
- 文脈や意図を理解できず、必要な情報にたどり着きにくい

生成AIがもたらす“新しい情報活用”の姿

7/16

情報を“探す”から “引き出す”へ転換

- ・キーワードではなく 質問そのもので必要な情報に到達
- ・文脈・意図を理解し、関連情報をまとめて提示
- ・情報探索にかかっていた時間を大幅に削減

属人化された知識を “読み解く”力

- ・散らばった知識をまとめ、わかりやすい形で回答
- ・ベテランが頭の中で行っていた“解釈・判断の補助”を再現
- ・組織全体の知識レベルを均質化

文書の種類を 問わず活用

- ・議事録、マニュアル、技術情報、報告書など
- ・非構造データでもAIが意味を把握し回答

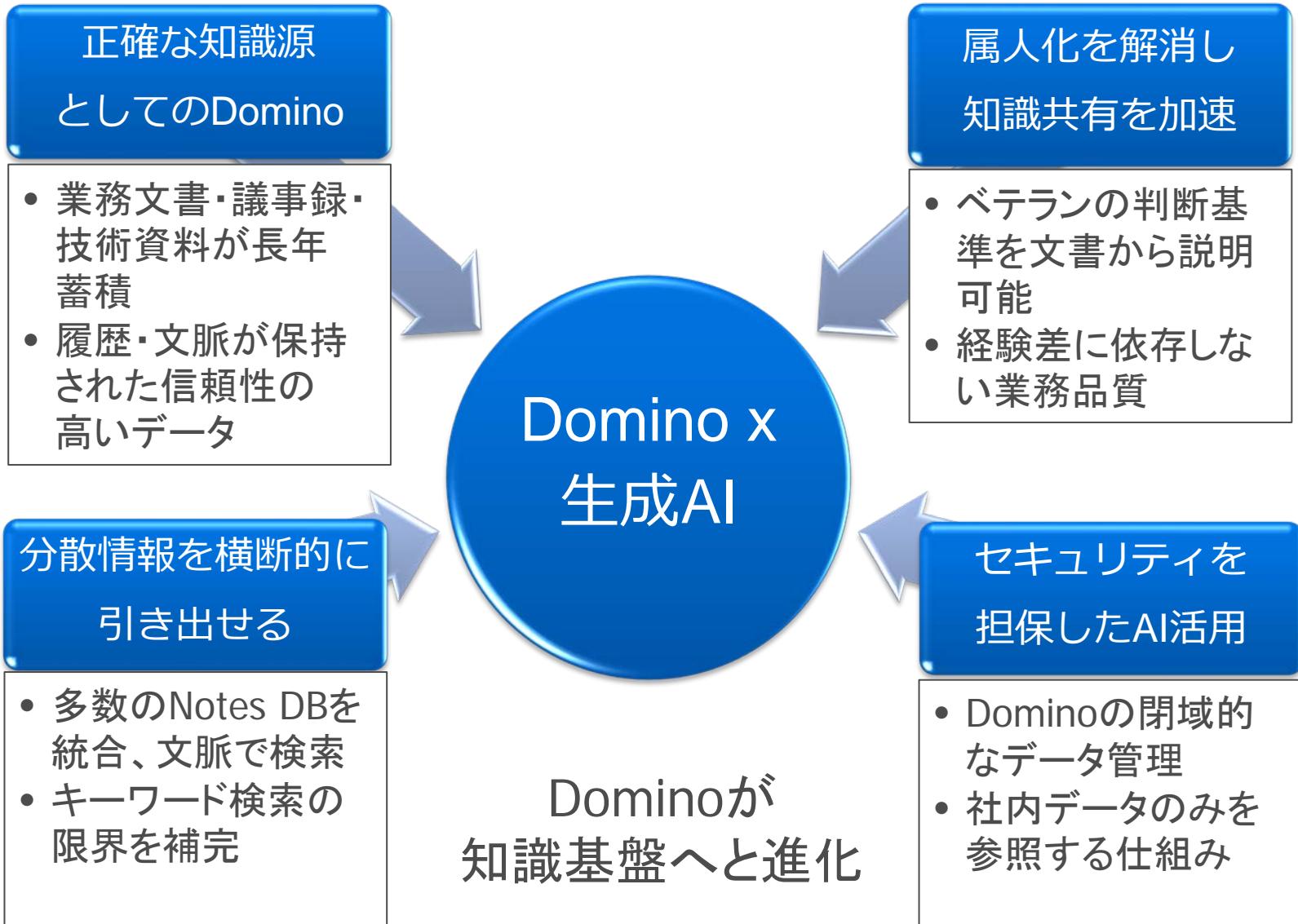
業務判断のスピードと 業務品質の向上

- ・必要な情報を正確に“要約・比較・説明”
- ・過去資料を“読み込む手間”が劇的に減少
- ・判断業務が属人化しない仕組みへ

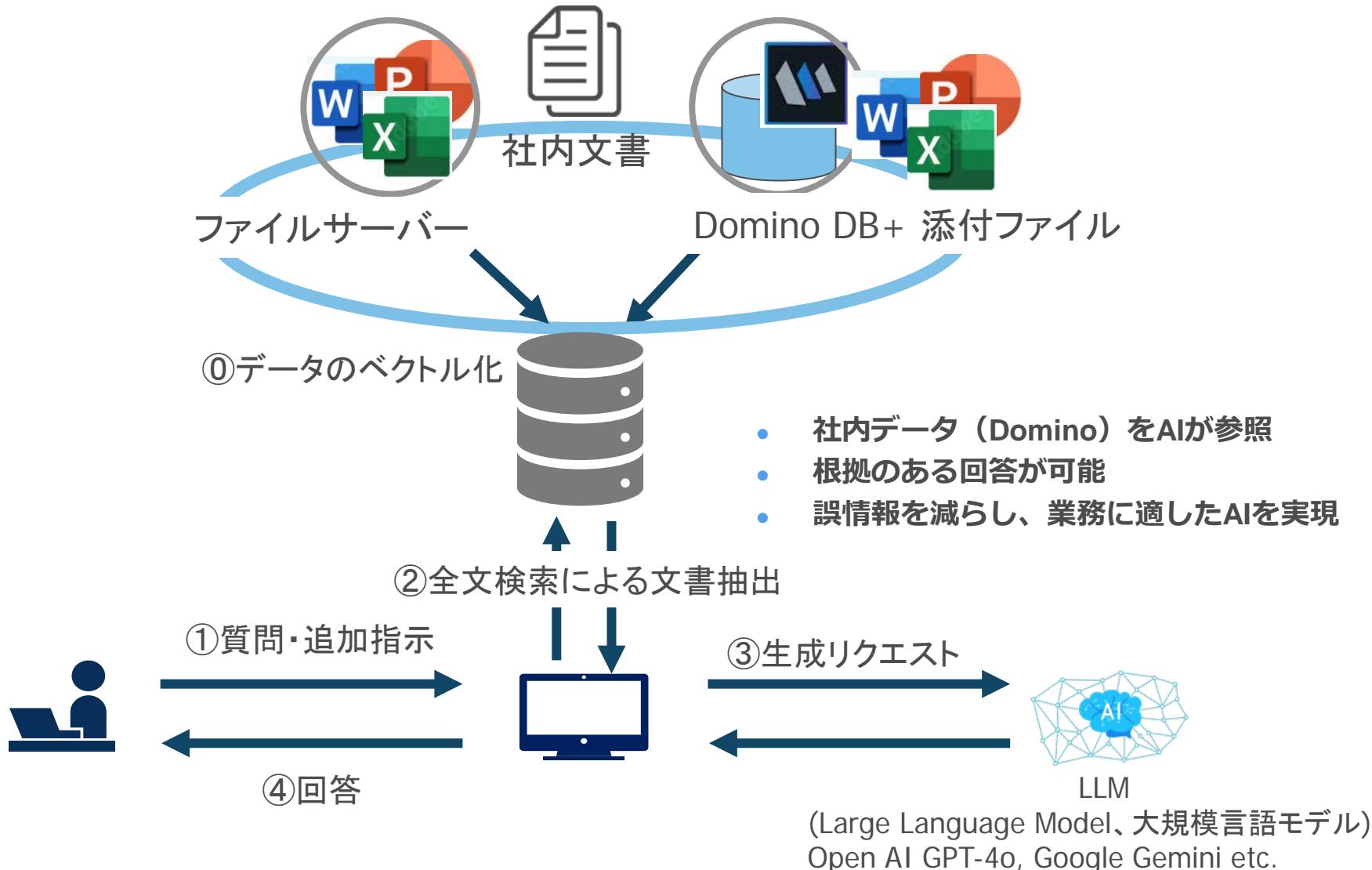
- 誤った回答（ハルシネーション）
 - リスク：誤った内容を自信満々に回答することがある
 - 対策：回答の根拠を社内データに限定する仕組みを使う
- 情報漏えい
 - リスク：社内情報の入力により情報漏洩の可能性がある
 - 対策：オプトアウト設定・企業向けAIを利用
- 判断プロセスの不透明さ
 - リスク：回答の根拠が説明しづらい
 - 対策：出典を必ず返す仕組みを構築

Domino×生成AIが有効な理由

9/16



Dominoが
知識基盤へと進化



- RAG, Chatbotの開発
 - 生成AIと会話しながら開発
 - 骨格は2週間程度で
 - Domino IQを使えばより難易度が下がる
- 実例
 - パソコンやソフトに関する質問
 - 人事規定やお知らせに関する質問
 - 過去の製品に関する知見



ITに関する質問

- 業務効率の向上
 - 情報探索時間を大幅に削減
 - 調査・確認作業の短縮
 - 探索時間は従来の1/3～1/5、対応時間も削減
- 判断品質・スピードの向上
 - 必要情報を横断的に把握
 - 判断根拠を短時間で確認
- 属人化の緩和
 - ベテランの知識を誰でも活用可能
 - 教育・引き継ぎの負担軽減

- 古くなった情報をどのように扱うか
 - 既に使われていないルール・手順も混在
 - 情報の鮮度が重要
- マニュアルにあるスクリーンショットを取り込むか
 - 画像は、不要な情報も含むためノイズになる可能性あり
- 足りない情報をどのように追加するか
 - 「この情報が文書化されていない」ことに気づく
 - それをどのように追加するか、仕組みが必要

- 非テキスト情報（画像・図面）への拡張
- 細かなアクセス権への対応
- 海外含む全社展開
- 業務判断支援への進化
- ワークフローや業務プロセスとの統合
(業務そのものの改革)

情報は“ある”だけでは
価値にならない

- ・企業には膨大な情報が蓄積されている
- ・活かされない原因は**分散・属人化・探索コスト高・キーワード検索の限界**

生成AIは情報活用の
形を変える

- ・「探す」から「引き出す」への転換
- ・文脈を理解し、横断的に抽出
- ・判断のスピードと質を同時に高める

DominoはAI時代の
知識基盤になり得る

- ・長年蓄積された、信頼できる社内情報
- ・業務知識が詰まっている

小さく始め、
業務改革に繋げる

- ・完璧を目指さず、使えるところから
- ・Domino IQの利用も視野に
- ・使うことで課題が見え、改善が進む

ご静聴ありがとうございました。